

中国山地四県十六市町村「県境サミット」

# 住民の交流を進め 広域連携を拡大する

県境サミット（正式名称「中国山地県境市町村連絡協議会」）は、平成五年、中国山地四県に

またがる十五市町村が連携して、過疎化や高齢化など共通の課題の解決を図るため設立されました。翌年一町が加わり現在は一市十四町一村で運営されています。事務局を鳥取県日南町に置き、日南町長が会長を務めています。年間予算は約三千万円で、約七割が構成市町村の負担、残りを国庫補助と事業収入で賄っています。圏域の八割が森林で、そこを水源に、五つの水系が形成されています。大山国立公園、帝釈峠などを中心に年間約四百万人の観光客が訪れます。

## 第一期の目標は 存在のアピール

県境サミットは設立以来、「エメラルドシティプロジェクト」と銘打ち、圏域の活性化に向けてさまざまな取り組みを展開してきました。第一期（平成五～七年度）の活動では、行政スタッフや住民の交流を進め、圏域の一体感を醸成し、県境サミット組織の確立に努めることが中心になりました。新聞で参加者を募集する地域フォーラムを年三、四回のペースで開催。この話し合いを通じて県境サミットへの期待感が高まり、一期のまとめのフォーラムには雪の中、定

員を越す八百人が集まりました。地域フォーラムは「勉強会」の性格を強めながら、現在も活発に行われています。グリーンツーリズムの形成を狙い、割引サービス付のガイドブック「エメラルドパスポート」を販売し、会員制の「エメラルド倶楽部」を組織しました。また県境サミット通信「エメラルドNEWS」を毎月発行し、圏域の全世帯に配布・回覧しています。

## 戦略的な 広域行政を展開

第二期（平成八、九年）は戦略的な広域行政を進めるため、①グリーンツーリズム②グリーンターミナル③グリーントラスト——という「三つのGT戦略」を展開しました。日本型グリーンツーリズムの実現に向け、構成市町村を有機的に結んだ広域観光ゾーンの創出が図られ、特産品や広域観光ルートの開発

エメラルドパスポート(右)と  
エメラルドひと紀行



割引サービス付観光ガイドブック。掲載されている約160の施設が10～50%割引になるほか、周辺の施設の優待も受けられる。観光情報も充実。代金は圏域地図（A3判）と圏域の名匠を紹介するミニ冊子「エメラルドひと紀行」が付録に付いて500円



現在、県境サミット活動の第三期（平成十年度以降）に入り、情報や環境インフラなどのハード事業、グリーンツーリズムなどの共同開発を進めています。水源トラスト運動も具体的に動き始め、五つの水系にちなんでCD「五川譜」を製作。売上金の一部を「中国山地水源トラスト事業」に活用しています。平成十一年には、フリーレンタカーシステムの実験を行いました。これはJRなど既存の公共交通システムとレンタカーの乗り捨てを組み合わせ、観光客に県境

### 森林都市圏の実現へ向けて

を行いました。公共交通機関と連携してモニターツアーも行了ました。「グリーンターミナル戦略」では中山間地域高度情報化研究会やトップセミナーを開催したほか、電光掲示板など情報インフラの整備を進めました。「グリーントラスト戦略」では、森林や水源の公益的機能を圏域全体で考える運動に取り組み、「水源トラスト寄付金付き地ビール」の研究に着手しました。

平成十一年暮に、「ブナの森から」が発売されま

### 水源の保全と地ビールの発売

を気軽に周遊してもらおうというもので、乗り捨てられた車は市民ボランティアが元の場所に返します。実験の成果を探る地域フォーラムでは、参加モニターから「周遊コースのモデルプランが欲しい」などの意見があった一方、まだニーズが少ないなどの声もありました。フォーラムでは新たに「福祉公用車の休日レンタル事業」が提案され、昨年から四町で試験的にスタートしています。

福祉公用車レンタル制度



車椅子で乗降しやすい公用車を住民に貸し出す制度。指定事業者に電話で申し込む。使用料は1日250円（保険料に充当）。鳥取県・日南町、鳥根県・広瀬町、岡山県・大佐町、広島県・東城町で実施中

エバーランド奥大山



「ブナの森から」



奥大山の源流水でつくる「ブナの森から」は3種類。レストランでは1杯（300ml）450円、ピン入りは500mlで800円。1リットル当たり10円を「中国山地水源トラスト」の基金に積み立てる。これは全国でも初の試み

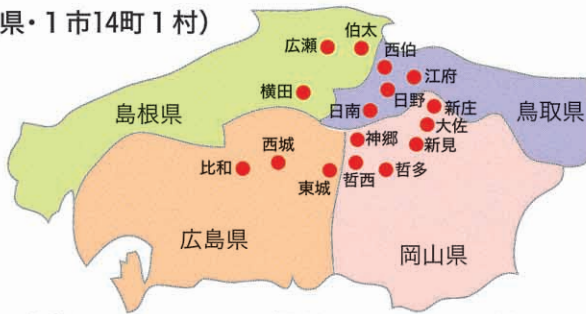
した。地ビールの製造は平成八年に実施が決定され、当初から「水源トラスト事業」として売上金の一部を積み立て、水源保全基金に充てることにしています。事業主体は鳥取県江府町の第三セクター「江府町地域振興（株）」で、従来から手掛けていたミネラルウォーターの製造ノウハウや販路を生かし、新規事業に挑戦。県境サミット全体で共同販売してバックアップ

### 県境サミット構成市町村の概要（4県・1市14町1村）

市町村名 人口 高齢化率

市町村名	人口	高齢化率
<b>鳥取県</b>		
西伯町	8,366	23.0%
日南町	7,382	33.4
日野町	4,921	29.4
江府町	4,316	28.3
<b>鳥根県</b>		
広瀬町	9,613	26.9
伯太町	5,684	24.8
横田町	8,411	27.3
<b>岡山県</b>		
新見市	25,513	24.5
新庄村	1,101	32.6
大佐町	4,153	26.8
哲西町	3,426	30.4
神郷町	2,677	29.7
哲多町	4,122	27.0
<b>広島県</b>		
西城町	5,443	33.1
東城町	11,141	31.2
比和町	2,246	36.2
<b>合計</b>	<b>108,515</b>	<b>26.8</b>

（平成7年国勢調査）



県境サミットホームページURL <http://www.emerald-c.net/>

関連する主な発電所  
 発電所名/俣野川発電所  
 （水力・中国電力）  
 所在地/鳥取県江府町、  
 岡山県新庄村  
 発電所名/黒坂発電所  
 （水力・中国電力）  
 所在地/鳥取県日野町、  
 鳥取県日南町  
 発電所名/新川平発電所  
 （水力・中国電力）  
 所在地/鳥取県江府町など  
 発電所名/新見発電所  
 （水力・岡山県）  
 所在地/岡山県新見市、  
 岡山県哲多町





する態勢を整えました。老朽化が進んでいた奥大山スキー場の国民宿舎を取り壊し、その跡地に平成十一年十二月、工場を併設した地ビールレストラン「エバランド奥大山」をオープンしました。鉄筋三階建ての建物にはほかに多目的ホールや大広間が設けられ、工場は年間百キロリットルの製造能力を持っています。「ブナの森から」は「エバランド奥大山」の来店者に提供するほか、新見市の「新見千屋温泉」、哲西町の道の駅「鯉が窪」など圏内各所で販売しています。また県境サミット内で行われるイベントなどには、移動販売車「うりまるくん」が出張し、拡販に努めています。「チロルの里地ビールCLUB」という会員制の通信販売も行っています。

## 住民のネットワークで 将来構想を推進

県境サミットでは、今年度から新たに「たくみの旅」整備構想を進めています。「食」「ひと」「環境」をテーマに圏域のネットワーク化を図り、広域的な

グリーンツーリズムを実現させようという取り組みです。クラシックカーでゆったりと県境の祭りやイベントを見て回ろうという「二〇〇一年県境の旅」も計画されています。住民によるネットワーク「田舎づくりフォーラム」では、「県境サミット時刻表」づくりが進んでいます。圏域の交通の不便さを解消しようと、JRや特急バス、路線バスなどと各地の駐車場の情報などを整理し、マイカーと公共交通の有機的な結びつきを促進しようとの取り組みです。今回の地域フォーラムでは、I・Uターナー者が一堂に会し、「県境サミットへのI・Uターナーの課題」について話し合います。

I・T化へ向けた取り組みも始まっています。県境サミット事務局の増原聡さんは「圏域を飛び越え『学校LAN』を構築することからスタートしようと思っています。先生とPTA、生徒がボランティアとして活動し、徐々に輪を広げていくのです。これなら大してお金もいらないうし、始まれば圏域のI・T化などすぐ出来てしまうと思います」と話しています。

## 県境サミットの活動概要

第一期  
H5~7年

- [目標] 県境サミットの存在アピール、組織の確立  
[テーマ] 地域フォーラム…行政と住民による地域問題の討議  
広域的研究……広域行政シンポジウム、日韓辺境サミット  
情報連携……インターネット、エメラルドパスポート  
文化的連携……コンサートほか  
独自の情報網……エメラルドNEWS、エメラルド倶楽部  
産業振興……エメラルドセミナー（合同就職説明会）

第二期  
H8~9年

- [目標] 戦略的広域行政の展開  
[テーマ] 日本型グリーンツーリズムの展開…エメラルドパスポートの充実  
緑の情報網の実現…中山間地域高度情報化研究会／トップセミナー／電光掲示板  
緑の共同経営……地域フォーラム／水源トラスト寄付金付き地ビールの研究

第三期  
H10年以降

- [目標] 森林都市圏の実現  
[テーマ] 中山間地域モデル基地事業…広域的図書館システム／インターネットによる施設予約システム  
地域フォーラム……農業問題／過疎地の公共交通  
モニターツアー……公共交通の旅モニター事業  
CD「五川譜」の販売…CD売上金の一部をトラストに活用  
住民交流の促進…民俗芸能大会／匠ネットワークの形成



哲西町の道の駅「鯉が窪」の  
県境サミット物産コーナー



徳島県・上勝町「彩(いろどり)事業」

# 葉っぱや小枝を商品化し 2億円のツマモノ産業に

上勝町は徳島市から南西へ約四〇キロ。徳島県のほぼ中央に位置し、人口は約二三〇〇人。

四国で一番小さな町です。八五%が山林で高齢化率は四〇%に達しています。昭和三十年代にはミカンと木材で発展しましたが、その後、木材は低迷。昭和五十六年には異常寒波でミカンが枯死し大きな打撃を受けました。そこで従来の農業から転換。新たな発想のもと、山間地の特徴を生かした「彩事業」と「菌床しいたけ栽培事業」を導入し成功させました。「足までおいしいたけ」「バランス食品の王様」など個性的なネーミングで販売するシイタケは、県下でも有数の産地になっています。

## 高齢者のパワーと 情報システム

上勝町は野山に自生する植物の葉っぱや小枝、花などを「料理のツマ」として全国の料亭やホテル、旅館などにパック詰めにして出荷し、年間二億円を稼ぎ出しています。この「彩事業」

の中核を担うのは女性の高齢者です。軽作業のため、材料の収穫からパック詰め、出荷作業までお年寄り一人で行うことができます。彼女たちの仕事をサポートするのは、第三セクターの「(株)いろどり」が開発した「『彩』情報ネットワークシステム」です。システムのポイントには包装箱に張り付けるバーコー

ドで、生産者、品目、販売先の情報を出荷時にデータ化するこトです。これで伝票処理が簡素化されます。さらに、生産者は当日の市況データや売上などを自宅のパソコンでチェックでき、翌日の出荷量を調整する上で役立ちます。また、販売情報は「いつ、どこで、何が売れるか」といった基本データとして活用されます。ネット上では商品の詰め方やポイントなど六百ページに及ぶ情報が確認できます。こうした情報を上手に活用している生産者では、一日三万円稼ぐことも珍しくありません。生産者の一人は「彩事業を始めたころは、野山にあるもので間に合っていました。注文が増えたので、今はミカン畑にクリやモミジを植えて計画出荷しています」と話しています。

## 山の葉っぱが 売れるわけがない

彩事業推進のキーマン、上勝町産業情報センターの横石知二課長補佐は、彩事業を始めるきっかけは大阪のすし屋で聞いた若い女性の何気ない一言だった

と言います。ツマモノを見て「きれいだわ。押し花にしてみたい」「持ち帰ってグラスに浮かべてみよう」。この言葉に横石さんは「葉っぱや枝、花などは上勝の山にいっぱいある。上勝にはハウスで枝ものを早く咲かせる『ふかし』の技術もある。これをツマモノにして全国の料理店やホテルに販売できないか」とひらめいたそうです。早速、農家に話したところ「葉っぱなんか売れるわけがない」と大笑いされ相手にされません。何とか昭和六十一年に三軒の農家の協力で試験的に出荷を開始したものの、一パックが十円、二十円にしか評価されない厳しい市場状況でした。

関連する発電所  
発電所名/勝浦発電所(水力・徳島県)  
所在地/徳島県上勝町など



上勝町ホームページURL  
<http://www.mandala.co.jp/kamikatsu/kamikatsu.html>



「ようこ(二)」



### かざりシリーズ

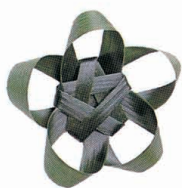
松葉や稲穂などを加工した膳飾り。

### 彩(いろどり)

ツマモノのシリーズ。「新春」「春」「夏」「秋」「冬」の5カテゴリー。



「うめ」



### 翠(みどり)

ハラシヤガを利用した舟、鶴、亀、升、扇などの細工物。

### Lovely(ラブリー)

カーネーション、パンジーなどの花を使った洋風ツマモノ。



「パンジー」



製品パンフレット

### ●つまもの百選●

季節を演出するツマモノ、正月の飾り、シャガの加工品、山菜、食用花などの製品案内パンフレット。全6シリーズ。

### JUMBO彩

笹、葛、ホオバ、つた、南天、モミジなどを使ったツマモノ。



「はす」

### 幸(さち)

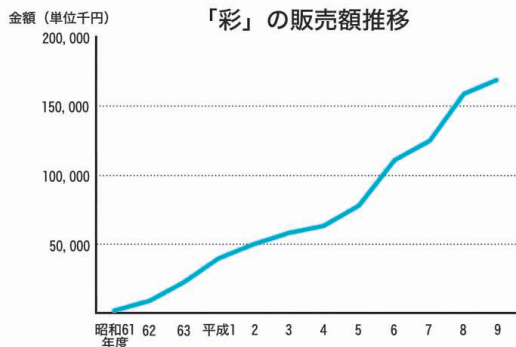
ワラビ、タラメ、葉ワサビ、クローバーなど山野草を使ったツマモノ。



「よめな」

## 商品企画と生産者ネットワーク

山の葉っぱをそのまま箱に詰めただけでは売れないし、もうからない。何が問題なのか、と考えた末、横石さんは徳島市内の料理専門家のもとに日参し、器や料理に合ったツマの大きさ、美しさ、季節感の表現方法などを学びました。同時に情報システムの研究を進め、平成四年、町の防災無線を使った「同報ファクシミリ」システムを開発し、生産者のネットワーク化を実現しました。同報無線ファクシミリは多数の生産者に伝えたい情報を一瞬に伝達します。生産者



## コンビニ型農業への挑戦

は毎朝、農協から送られる「特別注文情報」を見て予約し、指定期間までに出荷します。無線の空きを利用するため使用料は無料で、出荷依頼や生産状況などのやりとりが素早く、効率的にできるようになりました。製品企画やネットワーク化は市場から高い評価を受け、平成四年以降は急激に売り上げを伸ばし、今では町の農家の半数近い二〇〇戸が参加。年間約二億品目を出荷する二億円産業になりました。

事業が軌道に乗ったことから、横石さんは次に、生産者と顧客をネットワークで結ぶ「コンビニ型農業」を考えました。商品を「必要な時に」「必要の人に」「必要な量だけ」「必要な形で」提供するという、コンビニのPOS(販売時点情報)に倣ったシステムです。平成十一年四月には、四十戸にパソコンを配布(この時点でファクシミリ使用は一三四軒)し、イントラネットを構築しました。生産者はパソコン上の商品情報「いろどり





パソコンに向かうおばあちゃん

便り」や「市況報告」などの情報を基に計画生産・出荷のプランを考え、出荷予約します。翌日には、どこの市場でいくらで売れたか、自分の個別売上順位は何位か、などが確認できます。

**お年寄りでも扱える専用パソコン**

パソコンはお年寄りでも扱えるよう専用機器を開発しました。キーボードは「ここを押せばこうなる」という関係をはつきりさせ、マウスも大きく使いやすく、画面上の文字にマウスが来ると色が変わるなどの工夫をしました。また「パソコンを動かせば利益につながる」ことを粘り強く説明し、現在ではパソコンは約百戸に導入されるまでになりました。

## 提案型事業に向けIT化を進める

(株) いろいろりでは毎週、「上勝彩情報」を発行し、流通、ホテル、料亭などの取引先にファックス、メールなどで送信しています。「出荷可能な商品のPR」「葉の持つ効能」「使い方の工夫」など、提案型の情報を発信し、反対に料亭などのアドバイスも積極的に収集しています。現在の「イントラネット＋同報ファクシミリ」というシステムから、今後はインターネットで、海外も視野に入れた産地・取引先間のネットワークを構築する計画です。また「外食チェーンなどから直接受注できる仕組みも考えたい」(横石さん)と意欲的です。

彩事業は「正月飾りの工夫」など女性の感性が生かせる仕事です。「創造する喜び」もあります。収入という「やりがい」もあります。「家族の役に立っているので元気がわいてきた」というお年寄りの姿に接すると、高齢者福祉でも画期的な成功を取めたことが分かります。

## 『彩』情報ネットワークシステム

『彩』情報ネットワークシステムは、農産物の販売を支援する“イントラネット”と“同報ファクシミリ”のシステム。第三セクターの(株)いろいろりが企画し、同じく三セクの(株)上勝バイオが民間の情報通信会社と協力してシステムを開発した。

### 出荷予約データを上手に使うって農産物を安定販売

生産者が登録した出荷予約データは自動集計され、出荷数量を品目別に高精度に予測。販売担当者は出荷予約データと市場動向を合わせて検討することで、出荷調整を行い安定販売することができる。

### バーコードで出荷・精算業務がスピードアップ

生産者番号と商品番号をバーコード化したシールを出荷物に張り付け集出荷場へ。集出荷場では無線式スキャナーでデータ収集。

[主な機能]

- ◆生産者シール、商品シールの印字
- ◆荷受や分荷などの検品データの収集
- ◆販売実績の登録

### 同報無線ファックスで必要な情報を素早く生産者に

市町村防災行政無線設備を使用。多数の生産者に情報を一瞬にして伝達。全受信者へ、また特定の受信グループへも選択伝送できる。

### 高齢者もラクラク操作専用ブラウザ搭載の生産者端末

電源をONにするだけで自動的にイントラネットに接続。初期メニューに従って出荷予約、販売実績、以下の各種情報を閲覧できる。

- ◆出荷実績◆市場短観◆栽培方法◆病害虫情報
- ◆販売企画情報◆農産物規格、梱包方法

